

悩み抜くからこそ出せる答えがある

経路未だ知らず。岐ちまたに臨んで幾度か泣く

(性霊集)

この言葉は、空海が自身の若き日を振り返り、「どの道に進むべきかわからず、分かれ道を前にして何度泣いたことだろう」と述べたものです。「泣く」という

言葉には、血を吐くほどの苦悩が表現されています。空海のような偉人であっても、何が正しいのかわからず立ち止まり、悩んだ日々があるのです。

人生で重大な岐路に立たされた時、一人で考え、決断することはとても苦しいものです。しかし、自分が進むべき道は自分にしか決められません。決して投げ出さず、とことん悩み抜きましょう。

